



## 『今月の会長』

### 「競技人口について」

フェンシングをもっとメジャーに——。2017年8月、31歳の若さで日本フェンシング協会会長に就任した太田雄貴がまず最初 ...

今回は、競技人口の少なさを取り上げたいと思います。

協会長になってからの目標に競技人口50,000人という目標を掲げさせていただきました。

現在6,000人ほどのフェンシングが競技人口50,000人をめざす上で障害になっている点として、練習環境、指導者、費用などが思い浮かびます。

平昌オリンピックを沸かせたフィギュアスケートはフェンシングより費用も掛かることもあってか、登録人口は2,000人にも届きません。

そうであるなら、フェンシングも登録者数50,000も必要ないのではないか、という意見があるかもしれませんが。フィギュアスケートとフェンシングの決定的な違いは支える人々の数です。フィギュアスケートは浅田真央選手、羽生結弦選手をはじめ、ここ10年以上、多くのファンを引きつけるスター、ヒロインがいました。

支える人の大多数はファンです。熱心なファンは平昌オリンピックはもちろん、ふだんのグランプリシリーズでも、海外まで応援に駆けつけています。

一方、フェンシングはどうでしょうか。 支える人=家族、コーチで、ほとんどは身内のフェンシング関係者というのが現実です。

フェンシングが今後、発展するには、従来の方法にとどまらず、今までフェンシングに縁がなかった人々と接点を持つことが不可欠だと思います。「初めてフェンシング教室」でも、選手が試合を見せるというのでも構いません。

接点を持ち、点から線、線から面へ、太く強く、が理想です。

登録者=競技者である必要はありません。フェンシングを応援したい、あの選手が好き、といった考えでもいいのです。それは純粋な登録者といえないのではないかと、という反論をお持ちになる方もいらっしゃるかもしれません。

ですが、昨今のアイドルやアーティストを支えているのは、紛れもなくファンです。太い絆で結ばれたファンは、アイドルのライブには足を運んでくれるのと同様、私たち協会の剣士たちの大会に応援に来てくれるはずで

す。どんなに素晴らしい準備をして、選手たちが熱い試合を繰り広げたとしても、現場で観戦してくれる人、チケットを購入して会場に来てくれる人、価値を見いだしてくれるサポーターが必要です。

選手たちは勝つために最善を尽くします。それが最優先です。しかし、協会全体が、ただ勝つことだけを目標にするのでは、裾野は広がりません。フェンシング界全体を考える大局観を持つ。

斬新な発想で、挑戦する気概が必要です。

実際に競技する人以外からの登録が増えてくると、解決したい課題である登録費の値下げも、視界に入ります。

そうした流れが生まれることで、社会人フェンサーを増やすきっかけになればと考えています。

現在、日本フェンシング協会は登録のシステムの整備を進めています。カード決済も導入する計画で、これが実現すれば、どなたも自宅で簡単に登録ができます。

登録の移行に伴い、皆さんにご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解をいただければ幸いです。

太田雄貴